

日本リハ医学会近畿地方会Newsletter



平成26年度 第2号
2015年1月15日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局
大阪医科大学 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 佐浦 隆一

お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93番地 KRP6号館304号
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL: 075-315-8472 FAX: 075-315-8472 E-mail: office@kinkireh.com



代表幹事の挨拶

大阪医科大学 総合医学講座
リハビリテーション医学教室
佐浦 隆一

松が明けて小正月を迎え、日本リハビリテーション医学会近畿地方会(以下、近畿地方会)会員の皆様には、寒中お見舞い申し上げます。また、平素は近畿地方会の運営へのご協力、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

さて、昨年は公益社団法人日本リハビリテーション医学会(以下、リハ医学会)の役員(監事、理事)の改選がありました。また、リハ医学会専門医会でも幹事改選、近畿地方会も監事、幹事の改選年でした。リハ医学会役員会には、近畿地区からは田島文博先生(和歌山県立医科大学)が監事として、久保俊一先生(京都府立医科大学)、菅本一臣先生(大阪大学)、道免和久先生(兵庫医科大学)と私が理事に選任、専門医会幹事会には中村健先生(和歌山県立医科大学)が再選され、リハ医学会における近畿地区の発言力、発信力が強化されました。一方、近畿地方会でも平成26年7月26日の総会にて新幹事会(幹事56名、監事2名)が選出され、私も代表幹事に再任されました。

これまで多くの幹事、監事の方々のご尽力、会員皆様のご協

CONTENTS

- ◆代表幹事の挨拶 1 頁
- ◆新幹事の抱負 1-3 頁
- ◆京都府立医科大学リハビリテーション医学教室開設
(京都リハビリテーション医学研究会第1回学術集会開催案内) 4 頁
- ◆第2回近畿地区新専門医交流会の開催報告 5 頁
- ◆第38回日本リハビリテーション医学会
近畿地方会学術集会 会長挨拶 6 頁
- ◆第38回近畿地方会学術集会開催概要 6 頁
- ◆2015年度近畿地方会研修会カレンダー 7 頁
- ◆編集後記 7 頁

力により、近畿地方会は学術集会、生涯教育研修会、Newsletterの発行、近畿地方会学術誌の発刊など幅広く活動を重ねて参りました。そしていよいよ、来年は平成19年に住田幹男先生が会長をされた第44回日本リハ医学会学術集会以来、9年ぶりに近畿地区で学術集会(会長 久保俊一先生)が開催されます。また、平成29年からは新専門医制度下での臨床研修が始まります。

幹事会では、これらの事業や課題は、近畿地方会というチームで対応しなければとても乗り切ることができない、重大かつ重要な事項であると認識しています。そのために、これまで以上の近畿地方会会員皆様の協働、協力が必要となってくるので、皆様の暖かいご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。

新幹事 の抱負

新幹事の自己紹介です。経歴も専門領域もそれぞれ異なりますが、リハ医学にける熱意は大きく、近畿地方会の多様性と専門性がアップしました。



土岐 明子 大阪府立急性期・総合医療センター リハビリテーション科



平成9年広島大学を卒業後、平成10年秋に関西へ移り住み、近畿地方会に所属し、急性期総合病院、回復期リハビリテーション病棟などで勤務しました。平成22年3月に出産、1年間の育休後復帰し、平成24年4月から現在の勤務先に移りました。

現在の職場は救命救急センターを擁する急性期総合病院の中に回復期リハビリテーション病棟、障害者等病棟を有する珍しい形態の病院です。以前から、受傷直後からの全身管理、機能回復に関わりたくと考えていました。大変な面も多々ありますが面白みを感じながら日々診療しています。日本リハビリテーション医学会の仕事では、『神経筋疾患・脊髄損傷の呼吸リハビリテーションガイドライン』策定委員会委員をさせていただき、昨年6月に刊行されました。非侵襲的人工呼吸管理を中心に頸髄損傷者の呼吸障害についても取り上げています。

近畿地方会幹事としては、まずは教育委員会委員をさせていただくことになりました。リハ栄養やロボット技術、磁気刺激などリハビリテーションにはまだまだ新しい分野が広がってきています。会員の皆様の日々の診療・研究にお役にたてることができれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



三上 靖夫 京都府立医科大学大学院 医学研究科 リハビリテーション医学

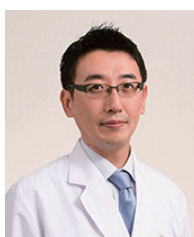


この度、近畿地方会幹事に加えていただきました三上靖夫と申します。昭和60年に京都府立医科大学整形外科に入局し、平成26年10月に新設された、京都府立医科大学リハビリテーション医学教室の病院教授を拝命しております。卒後2年目に脊髄損傷の患者を受け持つ機会を得てリハビリテーションの重要性を痛感しました。整形外科医として研鑽を積んで参りましたが、リハビリテーション医学にも興味を持ち、日本リハビリテーション医学会には入会して26年になります。脊椎脊髄疾患とリハビリテーションの臨床と研究に携わり、平成14年からは、京都府立医科大学の教員として学生や若手医師への教育を行ってきました。

超高齢社会を迎え、健康寿命延伸のためにリハビリテーションの必要性は高まるばかりです。「リハビリ」という言葉は広く認知されるようになってきましたが、一方で、誰もが良質なリハビリテーションの恩恵を受けられるような医療環境はまだ整っておりません。臨床や研究を通してリハビリテーション医療に携わる人材を育成し、近畿地方会の先生方とともにリハビリテーション医療・医学に貢献したいと考えております。どうか、よろしくお願い申し上げます。



酒井 良忠 神戸大学大学院 医学研究科 リハビリテーション機能回復学 / 神戸大学病院 リハビリテーション科

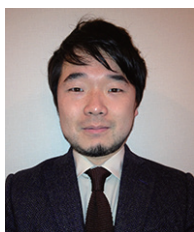


このたび、日本リハビリテーション医学会近畿地区幹事に選出されました酒井良忠と申します。平成8年神戸大学を卒業後、神戸大学整形外科教室に入局しました。平成21年から姫路獨協大学医療保健学部でリハ関連職種の教育に携わりながら、回復期病院での研修を行いリハ専門医を取得いたしました。平成24年に神戸大学大学院医学研究科リハビリテーション機能回復学の特命教授に着任し、神戸大学病院リハビリテーション科の開設と、リハ専門医の育成を行っております。元々の専門を生かして関節リウマチ、骨粗鬆症のリハビリテーションのほか、病院の特性としてがんリハビリテーションに力をいれております。とくに骨転移については、骨転移キャンサーボードを設立し、診療科横断的に患者ADL、QOLを向上

させるために取り組んでおります。また基礎研究では炭酸ガス経皮吸収の効果について研究しており、ポストポリオ症候群の臨床治験を開始予定です。大学病院のリハビリテーション科として、専門医の育成、エビデンスの構築、地域の回復期病院との連携など、学会に貢献できるよう努力する所存ですので、諸先生方のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



勝谷 将史 西宮協立リハビリテーション病院 リハビリテーション科



この度、日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事を務めさせて頂くことになりました勝谷将史と申します。平成15年兵庫医科大学を卒業し、同大学リハビリテーション医学教室主任教授 道免和久先生に師事しリハビリテーション医学を学んでおります。現在は西宮協立リハビリテーション病院にて医長として回復期リハビリテーションとリハ専門外来での診療を担当し、地域リハビリテーション支援センターの構成員としても業務マネジメントや組織運営など、地域における多職種連携やリハビリテーション医療の質の向上に務めております。リハビリテーション医療は介護・福祉領域とも密接に関わる分野でありチーム医療を基本とするため、他職種とのコミュニケーション能力やチームのマネジメント能力などの高いソーシャルスキル

を求められていると実感しております。後進の育成はもちろん、医師のみならずチームとして質の高いリハビリテーション医療を展開できるようなスタッフの育成やリハビリテーション医療の推進・啓蒙などリハビリテーション医療の発展に尽力していく所存です。まだまだ若輩であります、皆様ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



池淵 充彦 大阪市立大学大学院 感覚・運動機能医学大講座 整形外科



この度、日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事に就任いたしました、大阪市大医学部整形外科所属・池淵充彦と申します。

リハビリテーションという言葉は日本語として定着していますが、診察業務をしておりまると、医学領域においてさへリハビリテーション医学は本当に周知されているとは言い難い状況なのかな、と思わされてしまう事例に遭遇してしまい、残念な気持ちになることがままございます。ですが、状況は少しずつ変化しております。日本リハビリテーション医学会が基本領域18学会に含まれ、専門医制度の起ち上げが始まりました。ポリクリでもリハビリテーション医学に興味を持ち、質問をしてくる学生さんがちらほら現れてきました。

これはリハビリテーション医学に携わる諸先生方の日頃の努力の賜物であります。近畿地方会幹事となり、これをさらに育てていかななくてはならない立場となったことを考えますと、まさに身の引き締まる思いです。若輩者で行き届かない点多々あるかと思いますが、リハビリテーション医学の発達とリハビリテーション医学会の発展に、少しでもお手伝いできればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

**松本 憲二 関西リハビリテーション病院**

今年度、新幹事に就任させていただきました松本憲二と申します。

私は平成元年に京都大学卒業し、卒後内科臨床に数年携わっていましたが、患者さんの疾患を治療する中で、障害に対するアプローチを行うリハビリテーション（以下リハ）の重要性に目覚め、リハ医師になる決意をし、以降は国立長寿医療研究センターのリハ研究室の研究員をへて、平成14年から兵庫医科大学に入局し道免教授の指導を受けてまいりました。現在は関西リハビリテーション病院に勤務しております。

近畿におけるリハ科の認知度は、現在もまだまだ少なくリハ科志望の学生や医師が少ないため、リハ専門医数が絶対的に不足しており、リハ科医師赴任の要請に十分こたえられておりません。そのため、学生に対し、リハ科の魅力を十分伝えていき入局していただくこと、他科の医師のリハ科へ転科・専門医取得の教育をしていくことに、これまで以上に力をいれ、専門医の数の増加に微力ながら協力していきたいと思ひます。また、近畿地方会の教育活動を通じ、他科の医師の方々にもリハ科・リハアプローチの重要性について理解を深めていただくことに貢献できたらと考えています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

**西尾 健 京都市身体障害者リハビリテーションセンター**

この度、日本リハビリテーション医学会近畿地方会の幹事を新たに任ぜさせていただきましたことになりました西尾健と申します。平成2年に京都大学医学部医学科卒業後、整形外科と運動器リハビリテーション医学に携わってまいりました。平成15年より京都市身体障害者リハビリセンター附属病院整形外科および訓練科（リハビリテーション科）で、主には重度頸損や脊損、リウマチ患者、四肢切断患者や、高次脳機能障害患者の回復期リハ終了後の自宅復帰等に対応してまいりました。また京都市身体障害者更生相談所においても義肢装具適合判定、特例補装具判定、更生医療判定など公的業務も行っております。

当センターは平成27年度より京都市内における地域リハビリテーション機能を推進し、さらに高次脳機能障害のある方に特化した自立支援施設設置や事業者の人材育成等障害福祉サービスの機能充実にむけて組織の再編成をすすめております。地域生活の質的向上を目的とした生活期リハビリテーションが確立できるようリハビリテーション医学に貢献したいと思ひます。よろしくお願い申し上げます。

**倉都 滋之 ベルランド総合病院 整形外科**

このたび、リハ医学会近畿地方会の幹事を拝命いたしましたベルランド総合病院の倉都（くらつ）と申します。私は、昭和60年に徳島大学を卒業後大阪大学整形外科教室に入局し、現在に至るまで主に骨・軟部腫瘍（良・悪性）や関節外科を中心に医療活動を行ってまいりました。従いまして、当然のことながら運動器のリハビリテーションに携わる機会が主だったのですが、3年前現病院に赴任後は、当院が大阪府がん診療拠点病院ということもあり、がんのリハビリテーションにも積極的に携わるようになった次第です。骨・軟部腫瘍はもとより転移性骨腫瘍の患者さんのご紹介も著明に増加し、また今年9月の新病院開院後は20床の緩和ケア病棟も新設され、この領域におけるリハビリテーションの重要性を今さらながら痛感しております。全国より講師をお願いし、泉北骨・関節セミナーと泉北がんリハビリテーション研究会をそれぞれ年1回ずつ開催し、地方でのリハビリテーションの啓蒙にも励んでおります。

近畿地方会の諸先生方のご指導・ご鞭撻を賜り、リハビリテーション医学の発展のため少しでもお力になれますよう努力する所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

**松田 秀一 京都大学大学院 医学研究科 整形外科**

日本リハビリテーション医学会近畿地方会の幹事に就任させていただきましたことになりました松田秀一と申します。この場をお借りいたしまして会員の皆様にご挨拶させていただきます。このたび、幹事としてお認め頂いたことは身に余る光栄であり、その責務の重大さを痛感しております。私は九州大学の出身で、整形外科、中でも膝関節疾患を専門として参りました。平成24年の3月より京都大学整形外科およびリハビリテーション科の科長を勤めさせていただいております。

リハビリテーション医学は、複数の診療科の医師や理学療法士の皆様などとの共同作業なくては適切な予防、治療を行うことはできないと思ひます。近畿地区におきましても研究会などを通して大学間、業種間の情報共有や研究活動を行い、近畿地区のリハビリテーション医学の発展のために努力していきたいと思っております。微力ではございますが、佐浦隆一代表幹事をはじめ、幹事の先生方のご指導を賜りながら、本会の発展に尽力していく所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

京都府立医科大学 リハビリテーション医学教室開設 ～京都リハビリテーション医学研究会第1回学術集会開催案内～

京都府立医科大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学
責任教授 久保俊一 / 病院教授 三上靖夫

超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸のためにリハビリテーションの必要性が認識されつつあります。この様な社会情勢のなか、平成26年10月1日付けで、京都府立医科大学にリハビリテーション医学教室が開設されました。大学院名称がリハビリテーション医学、学部名称がリハビリテーション医学教室です。

京都府が高齢化に対する京都式地域包括ケアの3大プロジェクトとして、「認知症」「看取り」とともに「リハビリテーション」を据え、リハビリプロジェクトの一つとして教室の開設を決定したのが平成26年6月でした。その4カ月後に教室が開講し、整備を急ピッチに進めてきました。開設からまだわずかな時間しか経っていませんが、平成27年1月から実働を開始しております。

専任教員は、病院教授1名、講師2名の合計3名で、全員が日本リハビリテーション医学会専門医・指導医です。以前から附属病院でリハビリテーション医療を担ってきたリハビリテーション部、整形外科をはじめとする学内のリハビリテーションに関係の深い診療科、関係大学や関連病院の応援を得て教室を運営しております。

臨床系大学講座には、教育、研究、臨床の3つの使命があります。教育は人材育成であり、本教室の責務です。医学部生に対しては、平成27年4月から4回生に対する講義と、5・6回生の臨床実習を担当します。講義は客員講師の先生方にもお願いしてリハビリテーションの各領域をカバーしていく予定です。急性期リハビリテーションの臨床実習は附属病院で、回復期・生活期のリハビリテーションについては関連病院で行います。大学院生の指導は、後述する研究テーマに基づいて行っていきます。リハビリテーション専門医を養成するプログラムは専門医機構の指針に準拠しますが、独自に総合医療・医学教育学教室との統合プログラムを策定しました。さらに、リハビリテーションのメディカルスタッフを含め

たチーム医療の教育や、一般市民に対するリハビリテーション医療の理解を深める啓発活動などを行っていく予定です。

次に研究ですが、ロボットリハビリテーションの開発推進をテーマとします。新たにロボットリハビリテーションセンターを立ち上げて、各種ロボットを導入する予定です。その他、生体物理刺激を応用したリハビリテーションの開発、薬物療法を組み合わせたリハビリテーションの開発、義肢・装具の開発などを研究テーマとしていきます。これらの研究の推進を目的とする共同研究講座(仮称 リハビリテーション先端医療開発講座)が、平成27年4月に設立される予定です。

大学附属病院における実際の臨床については、専用病床が5床あります。また、従来から活動しているリハビリテーション部と連携しながら、各診療科の患者さんのリハビリテーションを行っています。

平成27年2月7日～8日に、教室が事務局を担当している京都リハビリテーション医学研究会の第1回学術集会をウェスティン都ホテル京都で行います。日本のリハビリテーション医学を代表する先生方をお招きして御講演いただきます。一人でも多くの先生方にお出でいただきたく、準備を進めております。学術集会の詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

(<http://www.kyoto-rehabili.jp/convention/rehabilitation01.html>)

立ち上がったばかりですが、各方面の御支援をいただきながら、リハビリテーション医学・医療に貢献していくことができる教室にしたいと考えております。会員のみなさま、どうかよろしく願いいたします。

教室ホームページ(<http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/reha/>)



教室開設式:平成26年10月2日
リハビリテーション医学教室開設式にて



メンバー:前列左から 久保責任教授、三上病院教授
後列左から 沢田講師(京都府リハビリテーション教育センター)、
野村講師、池田講師

第2回近畿地区新専門医交流会の開催報告

和歌山県立医科大学リハビリテーション医学 中村 健

平成26年11月1日(土)、大阪医科大学において第2回近畿地区新専門医交流会を日本リハビリテーション医学会専門医会と近畿地方会の共催で開催いたしました。この新専門医交流会は、昨年度、第1回を開催し好評であった事もあり、本年度も第2回として開催させて頂きました。基本的には、昨年度と同様に演題を募集し演題発表会と懇親会の形式で行いました。近畿地区では、平成26年度に21名の新専門医が誕生しており、平成25年度と24年度の新専門医と合わせて55名を対象に参加を呼びかけ、16名の新専門医の先生方の参加があり、5演題の発表がありました。また、近畿地方会から8名の幹事の先生方にも参加頂きました。

演題発表会では、京都大学医学研究科附属脳機能総合研究センターの小金丸聡子先生より「非侵襲的脳リズム刺激と歩行」、神戸大学大学院医学研究科リハビリテーション機能回復学分野の酒井良忠先生より「神戸大学リハビリテーション科の紹介」、吉野脳神経外科クリニックの島田憲二先生より「近況の御報告」、和歌山県立医科大学リハビリテーション医学の荒川英樹先生より「海外留学体験記」、大阪医科大学総合医学講座リハビリテーション医学教室の富岡正雄先生より「災害時のリハ介入のシステム作りについて-南海トラフ巨大地震を控えて-」という演題名で発表が行われました。日頃の研究や施設での取り組み、留学体験、災害リハでの活動など様々な方面での新専門医の先生方の

ご活躍を発表頂き、和やかな雰囲気のもと質問や意見交換が行われました。本年度も昨年同様、日頃の診療の苦労話などもあり、交流会ならではの演題発表会となりました。

懇親会は大阪医科大学の地下食堂で行い、初めに近畿地方会幹事ならびに日本リハビリテーション医学会理事であります久保俊一先生に乾杯の挨拶を頂きました。懇親会では、各新専門医の先生方の自己紹介や各近畿地方会幹事の先生方より新専門医に向けた激励の言葉などがあり、参加者間の懇親を深める事ができました。最後に、参加者全員による記念撮影を行い、近畿地方会代表幹事の佐浦隆一先生より閉会の挨拶を頂き交流会を終了いたしました。

本年度の交流会も昨年度同様、和やかな雰囲気のもと交流が行われ有意義な会であったとの意見が多く聞かれました。また、昨年度は専門医取得後2年目までの先生方を対象にしたところ参加者が少なかったとの意見もあったため、本年度は専門医取得後3年目までの先生方を対象としました。このため、昨年度は9名であった参加者が、本年度は16名となりました。今後多くの新専門医の先生方に参加して頂け、交流を広げていける交流会を開催していきたいと考えております。最後に、新専門医交流会に参加して頂いた新専門医、近畿地方会幹事の先生方に深く感謝いたします。



第38回日本リハビリテーション医学会 近畿地方会学術集会 および専門医・認定臨床医生涯教育研修会開催にあたって

第38回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会
会長 道免 和久
(兵庫医科大学リハビリテーション医学教室)

平成27年3月7日(土)に第38回日本リハ医学会近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会を、兵庫医科大学平成記念会館にて開催いたします。近年、地方会の一般演題は質、量、そして討論のすべてにおいて活発になっており、日本のリハ医学界をリードする地方会になってきたことを実感いたします。集学的かつ実践的な臨床医学としてリハ医学を発展させる推進力は、地方会での個々の症例についての熱心な議論かと思えます。幸い会場である兵庫医科大学平成記

念会館は定員700人ですので、これまでで最多の先生方にご参加頂いても十分に余裕があります。お一人でも多くの方々のご参加をお待ちしております。教育研修会では、さまざまな臨床現場で活躍されている先生方に役立てて頂けるよう、それぞれの分野の第一人者に御講演をお願い致しました。まず、リハ医療制度設計のキーパーソンである石川誠先生に「回復期リハと生活期(維持期)リハの現状と課題」、脳科学や運動学習でご活躍の長谷公隆先生には「脳損傷患者の歩行再建を目指したリハビリテーション治療」、最後に兵庫医大整形外科学教室の吉矢晋一先生から「スポーツ膝外傷・障害とリハビリテーション」について御講演頂きます。それでは、当日会場でお会いできることを楽しみにしております。

第38回日本リハビリテーション医学会近畿地方会 ならびに専門医・認定臨床医生涯教育研修会

開催日時：2015年 **3月7日(土)** 12:00~18:30

会長：道免 和久(兵庫医科大学リハビリテーション医学教室)

会場：兵庫医科大学 平成記念会館

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1-1

TEL：0798-45-6111 (代表電話)

TEL：0798-45-6881 (兵庫医科大学リハビリテーション医学 直通)

1. 一般演題

発表形式がMac PCの方は、必ずご自身のPC・アダプター及びコネクターをお持ちください。

Windowsの方は、PCでもUSBメモリーでも受付可能です。

演題申込要領：上記地方会幹事宛に、メール (office@craseed.org) にて

演題名、演者名、400字以内の抄録をお送りください。

受信確認の連絡を1週間以内に致しますので、万一連絡がない場合には、地方会幹事まで電話連絡 (Tel 0798-45-6881) をお願い致します。

演題締切：2015年1月22日(木) (延長しました。)

2. 専門医・認定臨床医生涯教育研修会(30単位)

1. 「回復期リハと生活期(維持期)リハの現状と課題」

医療法人社団 輝生会 理事長 石川 誠 先生

2. 「脳損傷患者の歩行再建を目指したリハビリテーション治療」 関西医科大学附属枚方病院 リハビリテーション科 診療教授 長谷 公隆 先生

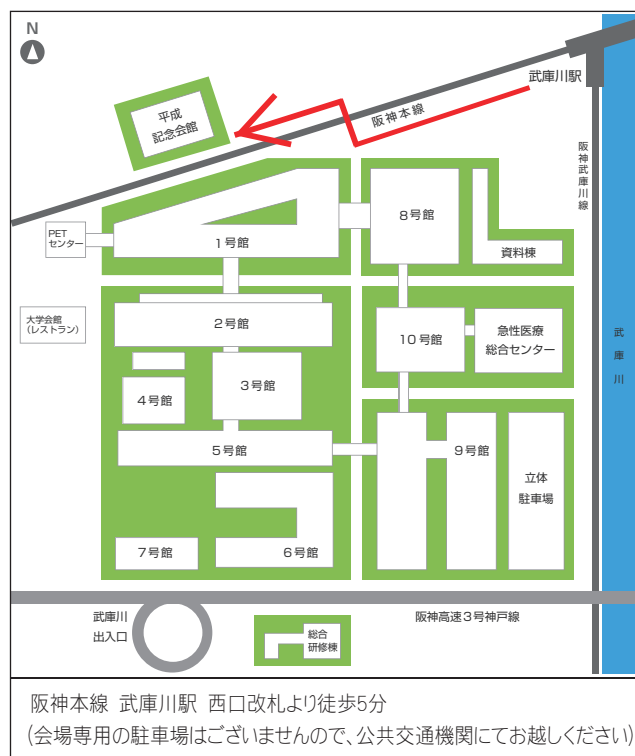
3. 「スポーツ膝外傷・障害とリハビリテーション」

兵庫医科大学 整形外科学教室 主任教授 吉矢 晋一 先生

認定単位：1講演10単位 参加費：2,000円 受講費：30単位一括3,000円 事前申込：不要

認定臨床医受験資格要件：認定臨床医の認定に関する内規第2条2項2号 に定める指定の教育研修会 (必須以外) に該当します。

日本整形外科学会研修会単位認定済です。単位：講演1 [13][14] 講演2 [8][13] 講演3 [12][13]



阪神本線 武庫川駅 西口改札より徒歩5分
(会場専用の駐車場はございませんので、公共交通機関にてお越しください)

お問い合わせ先：兵庫医科大学リハビリテーション医学教室 道免和久 電話：0798-45-6881 e-mail: office@craseed.org

近畿地方会研修会カレンダー

■日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2015年2月8日 15:05-17:20 会場：ウェスティン都ホテル京都（〒605-0052 京都府京都市東山区三条けあげ）

演題1.「維持期のリハビリテーションの実際」

高生会リハビリテーションクリニック 院長 高 謙一郎 先生

演題2.「世界のロボットリハビリテーション」

秋田大学大学院 整形外科科学講座 教授 島田 洋一 先生

演題3.「日本のロボットリハビリテーション、特に練習支援ロボット」

藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座 教授 才藤栄一先生

担当幹事 三上 靖夫（京都府立医科大学大学院）

※2015年2月7日～8日は同じ会場で京都リハビリテーション医学研究会学術集会が開催されます。

■第38回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2015年3月7日(土) 12:00-18:30 会場：兵庫医科大学 平成記念会館

演題1.「回復期リハと生活期（維持期）リハの現状と課題」

医療法人社団 輝生会 理事長 石川 誠 先生

演題2.「脳損傷患者の歩行再建を目指したリハビリテーション治療」

関西医科大学附属枚方病院 リハビリテーション科診療 教授 長谷 公隆 先生

演題3.「スポーツ膝外傷・障害とリハビリテーション」

兵庫医科大学 整形外科科学教室 主任教授 吉矢 晋一 先生

担当幹事 道免 和久（兵庫医科大学）

■第54回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2015年4月18日(土) 13:00～16:20 会場：大阪市立住まい情報センター

担当幹事 松本 憲二（関西リハビリテーション病院）

■第55回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2015年8月1日(土) 会場：神戸大学病院シスメックスホール

担当幹事 酒井 良忠（神戸大学大学院）

■第39回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2015年9月12日(土) 会場：森之宮病院ウッディーホール

担当幹事 柴田 徹（森之宮病院）

■第56回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2015年11月予定 会場：奈良県立医科大学厳樞会館

担当幹事 降矢 芳子（奈良県立医科大学）

■日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2015年11月予定 会場：京都府で開催予定

担当幹事 武澤 信夫（京都府リハビリテーション支援センター）

※当日は同じ会場で京都地域リハビリテーション研究会が開催されます。

■日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2015年11月予定 会場：兵庫県で開催予定

担当幹事 陳 隆明（兵庫県立リハビリテーション中央病院）

※当日は同じ会場で兵庫県リハ医学会学術集会が開催されます。

■第40回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2016年3月予定 会場：和歌山県で開催予定

担当幹事 中村 健（和歌山県立医科大学）

編集後記

今回、広報委員会も一部メンバーを刷新し今号の発行に至りました。記事へのご提案やご要望など、ぜひお寄せいただきますようお願いいたします。近畿地方会として年2回の発行の特色を生かした編集ができればと思っています。

広報委員会委員長 川上 寿一

